

母畑地区自治協議会発足に向けて

第一 母畑の歴史

○歴史

母畑地区にいつごろから人が住み始めたかは不明ですが「石のやじり」や「土器」が発掘されていることから、野や山でさまざまなものを手に入れて生活していた人がいたと思われます。

小田口A遺跡の発掘調査(昭和49年)から縄文時代中期(5500年前～4500年前)の土器の破片が見つかり、母畑の最も古い人間の存在が証明されています。母畑のことが見えてきたのは、昭和54年の小田口A遺跡の2回目調査で「かまど」と「土器」が発見され、1,200年程前のもので農耕生活が営まれていたことが分かりました。

弥生～奈良時代の母畑については何もわからない時代が続きますが、西日本では奈良県や大阪府を中心に持つ大和国が現れ日本という国が動き始めました。平安時代は中央では華やかな貴族社会が営まれておりましたが、母畑地区では平安住居のような小規模な住居が造られ人々が細々と農業をしながら暮らしていたと思われます。

平安時代の後半には源氏と平氏を中心とした武士が現れました。母畑の地名の由来となった「母衣旗」は源氏の棟梁八幡太郎義家がこの地を訪れた時に付いたといわれていますが実際に訪れていたかは不明です。

1063年源頼義・義家親子が安部氏を征伐した前九年の役の武功により源氏の武將源有光が奥州仙道を与えられ石川有光となり当地方を支配したと伝えられますが、有光の一族が石川庄内の開拓を行い農耕地が広がったと思われます。

1582年は本能寺の変により織田信長が明智光秀の謀反により自刃した年ですが、母畑地区でも石川惣領家昭光と分家須釜大寺城主大寺清光が母畑(米子平)で合戦をしました(油穀の戦いといわれています)。この合戦で湯郷渡の住民塩田伊勢守が兵50人を率いて戦い、石川軍が勝利しています。

1590年に石川昭光が豊臣秀吉に領地を没収されるまで約530年の間、石川氏の時代が続きました。領地没収後、石川昭光は伊達家の家臣となり宮城県角田に移封されます。豊臣秀吉が会津黒川城で行った奥州仕置により、石川は蒲生氏郷の会津領地となります。しかし、蒲生氏は家中騒動が原因で宇都宮へ転封になり、石川は上杉景勝の支配を受けることになりました。

1600年上杉景勝は徳川家康と対立し会津領から米沢に移封され、当地方は再び蒲生氏の支配下に入ります。

1627年白河藩の丹羽長重の支配となって以降、丹羽氏→松平忠次→1649年：本多忠義→1662年：本多忠平次男忠利に石川郡の内1万石を分与して石川藩になりました。時の将軍徳川家綱朱印状には石川1万石は16ヶ所からなり、その中に北山村、湯郷渡村、母畑村の記載があり、そのころから既に現在の母畑行政区の形が出来ていたことが伺われます。

1741年には越後高田藩分領地となり姫路から入封した榊原政永の支配となり3代続きますが、石川は浅川陣屋を置いて治められました。

1820年からは幕府直轄領となり浅川陣屋支配となり幕末まで続きます。浅川陣屋支配下には石川組、浅川組など12組が存在し、それぞれの組には数ヶ村、多い組で20ヶ村以上の村が所属していました。

石川組は1780年の段階で大庄屋 鈴木茂兵衛の支配下に16ヶ村あり北山村、湯郷渡村、母畑村がありました。このころの農民は年貢米に苦しめられ天明の大飢饉などで更に疲弊した農民は大規模な百姓一揆を起こしました。石川地方では1798年に浅川騒動が起こりました。

1868年戊辰戦争により幕府軍の主力であった会津藩が敗れ幕藩体制は崩壊し明治新政府が発足しました。

1871年(明治4年)新政府は廃藩置県を断行し石川郡の各村は白河県から平県さらに磐前県の所属となり、1876年(明治9年)福島、若松、磐前の三県が合併し福島県となり福島に県庁が置かれました。

○教育・自由民権運動

1873年(明治6年12月)には母畑村、湯郷渡村、北山村を合わせて一学区とし湯郷渡村に湯郷渡小学校が創設され、1874年(明治7年2月)湯郷渡小学校分校が母畑村七森の浄光寺に開設されました。

1878年(明治11年)石川地方に石陽社が結成され自由民権運動が活発になり、河野広中、鈴木謙治、吉田正雄など多士済々の運動家が石川はじめ県内、県外に活躍します。母畑では 関根常吉、関根健次、木戸郡一郎、中田万吉、務川和田次郎、味戸次郎松、永沼要人、渡辺健次、添田源右衛門、渡辺忠兵衛、渡辺忠太らが民権運動家として知られております。

1889年(明治22年)母畑村、湯郷渡村、北山村が合併し母畑村となり初代村長に務川和田次郎が就きました。

明治26年母畑尋常小学校が4年修業で開設され、明治41年義務教育6年制となり明治42年に母畑字樋田60に新校舎を建設し移転しました。以後、大正9年に高等科を併設、昭和16年母畑村立母畑国民学校と改称、昭和22年新学制実施に伴い母畑村立小学校と改称、同母畑中学校を併設しました。

母畑村は昭和30年に石川地方1町5ヶ村が合併し石川町となり、小中学校も石川町立母畑小学校、石川町立母畑中学校と改称、幾多の変遷を重ねた後、母畑中学校が昭和52年4月の石川中学校に統合され廃校、平成27年3月に母畑小学校が閉校となり母畑地区に義務教育の学校が無くなりました。

参考文献 ビジュアル石川町の歴史、石川町史 別巻、母畑小学校閉校記念誌

母畑の石・温泉・歴史・母畑湖 三森たか子著

藤田城史 石川町中野行政区 藤田城址整備委員会

第二 母畑の現状

○地形・地質

母畑の大地は標高290mから480mの丘陵地で地質的には東部（湯郷渡の東部、北山）が矢造変成岩、西部（上母畑、下母畑、北須川の左岸）が花崗閃緑岩からなる堅牢な地盤上にあり地震等にも強い安定した地域です。南北に走る北須川により浸食された谷合に母畑ダムが築造され下流の米子平から湯坂の沖積層には耕地が広がり集落圏が形成されています。また上母畑地区から流れ出す堀田川両岸の沖積層も耕地として利用されています。丘陵部沢沿いの湿地部は水田、水利の悪い一段高い所は畑、更に傾斜がきつくなる雑木や杉林と続き典型的な里山が形成されています。

参考文献 石川町の地質 石のまち石川の鉱物・岩石・地層

○気象

石川町気象観測所（石川町双里）の平成16年から平成27年の気象概況によれば年平均気温は12.0度、最高気温が平成27年の37.5度、最低気温が平成22年の-11.1度、降水量は平成16年の1,675mm、日最大降水量は平成23年の186.0mmとなっています。比較的温暖で住みやすい地域ですが、地球温暖化の影響か最近の降雨はスポット的に集中し未曾有の豪雨が発生する確率が高まっています。

○産業

母畑地区の主な産業は農業ですが、作目的には稲作、畜産が中心で一部に出荷野菜、葉たばこが栽培されています。専業農家は減少し、後継者不足から耕作放棄地が増えつつあります。2015年農林業センサスによれば、母畑の総農家数は155戸、内販売農家数は100戸、経営耕地面積97haです。耕作放棄地101haで、耕作放棄面積が経営耕地面積を上回ります。主な働き場所は、石川町内及び近接市町村で通勤可能な会社に勤務し、一部県外へ単身赴任されるケースも見受けられます。製造業は閑場地内に数社あり雇用の受け皿になっている、他にサービス業では旅館業で5軒ですが、八幡屋が日本一の旅館になり全国的に母畑の知名度が上がっています。

○交通

母畑地内にはあぶくま高原道路の石川母畑ICがあります。他に主要地方道須賀川・古殿線、飯野・三春・石川線、県道母畑・白河線があり国道118号線に連結しています。また福島空港にも近く、東北新幹線にも1時間程度でアクセスできます。一方で町道の整備は遅れており生活道路の整備が急務です。交通機関では福島交通が母畑・須賀川線と石川・小野線の2路線で運行している他、児童生徒の送迎用スクールバスが運行されています。また、日常生活上はマイカー使用が大部分で自家用車はなくてはならない生活手段になっています。今後高齢化に伴う運転免許返納後の足となる交通手段の確保が大きな問題となります。

第三 地域の課題・課題に対する意見・組織の不明点・組織化への意見

○地域の課題

- ・少子高齢化による年齢構成のアンバランスで若年層が激減
- ・一人暮らしの見守りと安否確認
- ・働く場所が無いこと
- ・小学校統合による保護者間や隣組同士の関係が希薄化
- ・高齢者の運転免許証返納後の交通手段の確保や生活支援
- ・消防団員の確保
- ・耕作放棄による農地の荒廃とイノシシ等鳥獣被害対策
- ・母畑開拓パイロットの償還金問題

○課題に対する意見

- ・新たな産業を起こす
- ・区を統合する

- ・運転免許証返納後は便利な所に引っ越す
- ・移動販売車等の日常買い物支援
- ・小学校跡地を利用して出来ることを探す
- ・独居老人に配食サービスや郵便配達時の安否確認

○組織の不明点

- ・区長と自治協議会役員の間連
- ・自治協議会設立のメリット
- ・加入は各団体の意思確認を行うのか
- ・設立後の交付金、補助金の取り扱いはどうなるのか
- ・既存の集会所の修繕費も補助対象になるのか
- ・役員報酬はあるのか

○組織化への意見

- ・周知を徹底するためメディアを使い広報する
- ・交付金ありきの組織は上手くいかない
- ・ボランティアは長続きしないので少しでも稼げた方が良い
- ・区長ばかりに責任がいくと協議会は発展しない
- ・若い人の負担が大きくなることは避ける
- ・高齢者だけでなく若い人も参加してみんなが一堂に会して話し合う場が必要
- ・イメージどおり出来るか心配
- ・4部会でなく2部会で発足したらどうか

第四 課題に対する取り組み

自治協議会は地域で出来るものは極力地域でやるものと石川町第5次総合計画の基本方針がありますが地域で対応できないものもあります。したがって、町政で取り上げる項目と母畑地区で対応可能な項目に区分されます。

○母畑地区でやらなければならないこと

- ・地域の話し合いで決めなければならないこと
地域で行うイベント、ものづくり、環境整備など
- ・地域の支え合いで解決しなければならないこと
隣組同士の見守りや助け合い、道普請等の共同作業、鳥獣被害対策など
- ・地域の資源を有効に活用できること
有形無形文化財の伝承、盆踊り保存、溪流整備、農地・水の多面的機能維持交付金を活用した耕作放棄地の防止、休耕地の利活用など

○石川町の行政として取り扱う事項

- ・人口減少対策
- ・働き場の確保と企業誘致
- ・自治協議会への人員配置やお金に関すること
- ・消防団員の確保のため町役場職員や企業への勧誘
- ・生活環境の整備計画、実施計画、発注、工事施行
- ・地域の主要産業である農業の振興と鳥獣被害対策
- ・母畑開拓パイロットの償還金対策

以上の内容を踏まえ自治センター運営協議会から母畑自治協議会に移行し組織力を高めるため設立意義と目標を次の4本の柱とする。

自治センター運営協議会から自治協議会へ 母畑の力を結集

○自治協議会の4本の柱

1. 生活支援、見守り等の住民福祉のネットワーク確立
2. 旧母畑小学校跡地へコミュニティ施設整備
3. 生活道路の整備、上水道未普及地域の安定的な水源確保等のインフラ整備
4. 母畑地域食彩工房の発足と観光客との交流

第五 自治協議会の組織

新たに発足する母畑自治協議会の組織は現在のまちづくり委員会の活動継続を基本とし、区長会と合わせた「地域づくり部会」、防犯協会と交通安全協会を合わせた「安心安全部会」、民生児童委員・更生保護委員・保健衛生協力員・長寿会・社会福祉協議会を包括した「福祉部会」、青少年健全育成協議会・スポーツ推進委員・自治センター各種学級を包括した「教育・学習部会」の4部会制とする。

また、企画推進委員は事務局に含め、事務局の上に「理事会」、最上位に「総会」を置いて「母畑地区自治協議会」を構成する。母畑地区自治協議会に「会長」を置き、母畑自治センターの平成29年度事業を踏襲して発足し、以後随時見直しを行う。

湯郷渡・上母畑・下母畑各サロン・・・春がもう少しでやってきます。 体力を付けて頑張りましょう！

2/6（火）湯郷渡サロン：19名参加、講師：小早川 義貴（県医師会派遣医師）、2/9（金）上母畑サロン：16名参加 講師：廣田 智（理学療法士）、2/13（火）下母畑サロン：11名参加 講師：嶋原 亨仁（ひらた中央病院）湯郷渡サロンは、県医師会派遣医師による『健康寿命を延ばす』為の講話で外のサロンでは健康体操が行われました。



湯郷渡サロン



下母畑サロン



上母畑サロン

2月の白菊学級開催

2/14日（水）白菊会は加井千聡保健師（保健センター）による健康相談（血圧測定）を行いその後健康診断結果通知書の見方について説明をして頂いた。



白菊学級

お 知 ら せ ！

*3月定例議会 ; 3月8日（木）～16日（金）

※一般質問 3月12日（月）10時～

*母畑自治センターでパソコン傍聴が出来ますのでお越しください。

3月の行事

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 2日（金）10:00 桜植樹研修会 | 11日（日）9:00 湯郷渡区総会 |
| 2日（金）18:30 自治協議会理事会 | 13日（火）13:30 下母畑サロン |
| 3日（土）9:30 そば打ち教室・総会 | 講師：リードサービス社 |
| 3日（土）13:30 書道教室 | 14日（水）13:30 白菊学級 |
| 6日（火）9:30 湯郷渡サロン | 17日（土）13:30 書道教室 |
| 講師：嶋原 亨仁（ひらた中央病院） | 18日（日）9:00 母畑第一区総会 |
| 6日（火）13:30 きたす会 | 18日（日）9:00 上母畑区総会 |
| 8日（木）13:30 ハーモニカ教室 | 20日（火）13:30 きたす会 |
| 8日（木）18:00 民謡教室 | 22日（木）13:30 ハーモニカ教室 |
| 9日（金）9:30 上母畑サロン | 22日（木）18:00 民謡教室 |
| 講師：嶋原 亨仁（ひらた中央病院） | 24日（土）13:30 書道教室 |
| 10日（土）9:00 桜苗木植樹 | 27日（火）13:30 きたす会 |
| 11日（日）8:00 北山区総会 | 31日（土）19:00 交通安全母の会総会 |

編集後記 母畑自治センターの庭にある福寿草が咲き出し、寒い冬からやっと抜け出せました。周りを見渡しても白い雪が少なくなって来て、ようやく春ですね。地区の役員さん達は平成29年度の締めで大変でしょう。もう少しです頑張ってください。